

東京大学での所属学部/研究科(教育部)・学年(プログラム開始時):農学部/ 農業・資源経済学専修/ 3年

参加プログラム: 全学交換留学

派遣先大学: シェフィールド大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界: 金融) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

シェフィールド大学は学生数がおおよそ 26,000 人の英国の総合大学。そのうち 6,000 人ほどが海外からの学生である。英国の中でも教育レベルが高いとされており、学生による評価も非常に高い。シェフィールドはロンドンから電車で 2 時間、マンチェスターから電車で 1 時間の場所に位置する。

留学した動機

ヨーロッパの大学において自分の実力を試したかった。また大学生という立場で海外で生活することで、多様な刺激を受ける機会を設けたかった。また、経済学部において基本的な経済の知識を身につけるという目的もあった。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況: 西暦[2014]年 [学部] / 修士 / 博士[3]年の[夏]学期まで履修

②留学中の学籍: 休学 / 留学

③留学期間: 2014年 9月 ~ 2015年 2月 [学部] / 修士 / 博士[3]年時に出発

④留学後の授業履修: 西暦[2015]年 [学部] / 修士 / 博士[4]年の[夏]学期から履修開始

⑤就職活動の時期: 西暦[2015]年 [学部] / 修士 / 博士[4]年の[4]月頃に (行った / 行う予定)

⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[59]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[8]単位
留学後の取得(予定)単位[71]単位

⑦入学・卒業 / 修了(予定)時期: 西暦[2012]年 [4]月入学 西暦[2016]年 [3]月[卒業] / 修了

⑧本学入学から卒業 / 修了までの期間: [4]年[0]ヶ月間

⑨留学時期を決めた理由:

半年間の留学であれば4年間での卒業が可能であること、また就職活動の時期が遅くなったため、就職活動にもあまり遅れをとらなくて済むようになったことからこの時期を選んだ。また自分の専門が見え始めた時期に行くことで、その分野の基本的な知識を身につけるという意図もあった。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

ビザの申請手続きなどは常に早めに行い、連絡が遅い時は確認のメールを送る必要がある。留学前にチャットの会議システムなどを使って質問をする機会もあるので、必要に応じて使うと良い。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

半年間の留学では必要ないが、アルバイトをする可能性を考え Tier4 のビザを取得した。このビザを取得するにはシェフィールド大学からの許可証が必要で、これが送られてくるのが留学開始 2ヶ月前ほど。このメールが届くのが遅いケースがあるので大学側に催促する必要がある。手続きの際に追加料金を支払えば 1 週間ほどでビザが発給される。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特別な予防接種などは受けなかった。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

海外旅行保険(旅行目的: 留学)に入った。5ヶ月で約 10 万円ほどだった。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

留学届けと教授への連絡

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

留学前の英語レベルは TOEFL iBT106。ロンドンで 4 年間の在住経験があったため、特別な準備はしなかった。授業の課題としてエッセイをほぼ確実に書くことになるため(特に文系学部の場合)、英語の基本的な Academic Writing の知識を持っておくと非常に役に立つ(論理構造など)。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

多くの国からの学生と触れ合う上で、日本についての基本的な知識は必要不可欠となる。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

- Applied Macroeconomics (Level 2、 20 credits)
- International Trade (Level 3、 20 credits)
- Economic Analysis of Inequality and Poverty (Level 3、 20 credits)

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

授業の形式は1つのモジュールにつき、LectureとTutorial(またはSeminar)が毎週それぞれおよそ90分ある。Lectureでは教授による講義を聞き、Tutorialでは演習問題の解説や討論などを行う。授業時間は長くないが、Reading listに記載された論文を読む時間、また課題のEssayを書くための時間などが必要となる。経済学部は授業で使われるスライドが事前にダウンロードできたため、それをプリントアウトしてノートとして使っていた。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

授業時間は②に記載した通り。授業以外の学習時間としては毎日それぞれのモジュールに1時間から2時間は使う必要がある。

④学習・研究面でのアドバイス

エッセイを書く際にはELTCのWriting Advisory Serviceを利用すると良い。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

基本的な英語でのAcademic Writingの方法を把握しておく、論文を読む上でもエッセイを書く上でも役にたつ。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

University AccommodationのCity Centreで登録した結果、Mappin Courtを割り当てられた。6人でシェアするフラットで、トイレ(バスルーム)とキッチンが共同。家賃は5ヶ月で約2,100 GBP(光熱費含む)。基本的に大学のスケジュールなどに鍵の受け渡しなども組み込まれており、大家とのやりとりなどの面倒が省ける。フラットメイトも全員半年間の留学生だった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

Mappin Courtは町のほぼ真ん中に位置し、Student UnionやInformation Commons(メインの図書館)から歩いて10分、シェフィールド駅までも歩いて20分の距離。近所にTescoなどのスーパーもあり、非常に便利。

シェフィールド全体としてはトラムとバスの移動手段がある。

気候は基本的に過ごしやすく、日本の気候を少し穏やかにした感じである。フラットの中にはセントラルヒーティングが付いているため、暖かく過ごしやすい。

Tier4のビザを持っていれば銀行口座も作れるはずだが、自分は作らなかった。クレジットカードで補えるほどの現金を持って行った。ATMは街中に数多くあるので探すのには困らない。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は比較的安全だが、盗難は多いようなので戸締りは気をつけなければいけない。また、夜一人で歩くことも極力避けるべき。Sheffieldはイギリス国内の大都市の中では一番犯罪が少ない町とされている。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

月に約10万円(旅行などを含む)。食費に6万円、Give it a Goなどの活動や旅行などで2万円、その他生活用品の購入、教科書の購入などで2万円ほど。

・留学に要した費用総額とその内訳

航空賃はExpediaを使って行きと帰りで別々に片道切符を買い、合計約18万円ほどだった。

月々の生活費 10万円

寮費 40万円

合計約100万円から110万円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

Fung Scholarshipより月に8万円支給していただいた。

東大の国際交流課を通して応募。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

Society(日本のサークルのようなもの)はMusic Players' SocietyのFriday Night Jazz EnsembleとSwing Dance Societyに入っていた。日本人留学生の多くはJapan Societyにも入っている。

毎週 Give it a Go というプログラムで日帰り旅行や他国の文化を学ぶ講座などいろいろとイベントが企画されている。長期休暇中はイタリア、ドイツ、オランダ、ポルトガルを旅行した。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

基本的にサポートは充実している。英語面に関しては ELTC の授業またはサービスが役にたつ。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

イギリスで一番の Students' Union に選ばれており、カフェやクラブ、Give it a go のプログラムなどは非常に充実している。メインの図書館である Information Commons は 24 時間 365 日開いており、非常に便利。パソコンも多く設置してある。大学のプリンタを使って自分のラップトップから印刷をすることが可能。

スポーツのプログラムは Goodwin Sports Centre というところで開催されており、ジムに登録している学生も多く見られた。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

選択肢の幅や就職以外の選択肢といった幅が広がった。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

1. 研究職
2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:)
3. 公的機関(機関名:)
4. 非営利団体(団体名又は分野:)
5. 民間企業(企業名又は業界:)
6. 起業(分野:)
7. その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

東大とは全く異なる環境に自分を置いてみることで見えてくることや得られるものは数え切れないほどある。また、様々な国の学生と培ったつながりというものが将来において自分の人生を豊かにしてくれるものだと考えている。

②留学後の予定

4 年に進学し、そのまま卒業を予定。就職活動をするをメインに考えている。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

興味があるのであればとりあえず思い切って応募してみるのも一つの手である。注意点としては ELTC (English Language Teaching Centre) が行っている留学生向けの英語の授業はあまりレベルが高くないため、やはり学部の授業を受けたほうが有意義な留学になると個人的には感じる。そのため、ある程度の英語力を身につけていると、勉強面ではより面白い留学になると思う。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科(教育部)・学年(プログラム開始時): 経済学部 4年

参加プログラム: 全学交換留学

派遣先大学: シェフィールド大学

卒業・修了後の就職(希望)先:

5.民間企業(業界:総合商社)

<p>派遣先大学の概要 イギリスのシェフィールドにある大学。町中にキャンパスが点在。</p>
<p>留学した動機 シェフィールド大学が各国から多くの留学生が集まる大学であると聞いており、世界各国の学生と交流できると考えたから。</p>
<p>留学の時期など ① 留学前の本学での修学状況: 西暦[2014]年 学部[4]年の[夏]学期まで履修 ② 留学中の学籍: 留学 ③ 留学期間: 2014年 9月 ~ 2015年 2月 学部[4]年時に出発 ④ 留学後の授業履修: 西暦[2014]年 学部[4]年の[冬]学期から履修開始 ⑤ 就職活動の時期: 西暦[2014]年 学部[4]年の[4]月頃に(行った) ⑥ 本学での単位数: 留学前の取得単位[92]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[]単位 留学後の取得(予定)単位[]単位 ⑦ 入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2011]年 [4]月入学 西暦[2015]年 [3]月卒業/修了 ⑧ 本学入学から卒業/修了までの期間: [4]年[]ヶ月間 ⑨ 留学時期を決めた理由: 就職活動に影響の出ないようにしたかった。</p>
<p>留学の準備 ① 留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど) TOEFL/IELTS のスコアを早めにクリアしたほうがよいと思います ② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) Student Visitor Visa のため手続きの必要なし ② 医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等) なし ③ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) AIU ④ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 念のため、留学前に卒業単位をそろえました ⑤ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等) TOEFL の点数を満たすのに努力を要しました ⑥ 日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど 薬 紙の辞書(試験持ち込み可です)</p>
<p>学習・研究について ① 履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合) ※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。 Labour Economics Work and Society in Japan</p>

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

一講義は50分でした。エッセイやプレゼンテーションが試験のほかに課され、とくにエッセイには時間がかかりました。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

3科目・60creditsを履修していました。科目にもよりますが、ひと科目50分×週2~3でした。

④学習・研究面でのアドバイス

エッセイを書くのには非常に時間がかかります。早めに始めることをお勧めします。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

English Teaching Centreを活用するといと思います。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

キッチンのみ共有の寮。

家賃は1か月10万近くしました。

② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

学生街で、安全な街でした。

バスもしくは徒歩が主な交通手段でした。

海外でお金をおろせる口座を開設してから行きました。

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は非常によかったです。

大学の無料の保健センターがあります。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

家賃を抜けば、月に7万円ほど

・留学に要した費用総額とその内訳

130万円程。

航空券が約25万円、保険が約10万円。

④ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

業務スーパージャパンドリーム財団奨学金で、月額15万円いただいていた。

⑤ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

フラットメイトと過ごす時間が多かった。

派遣先大学の環境について

① 留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

留学生同士に交流の場を多く与えてくれました。

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は常に混んでいて、席が無いこともしばしばでした。

留学と就職活動について

① (就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

留学前に就職活動をしたのであまり関係がありませんでした。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

5.民間企業(企業名又は業界:総合商社)

留学を振り返って

① 留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
いろいろな国の人々と触れ合い、考え方を知れたことが一番の収穫でした。

② 留学後の予定
総合商社に就職します。

③ 今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
少しでも興味を持ったら、迷わず行ってみるのがいいと思います。少なくとも私は留学してとてもよかったと思っています。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科(教育部)・学年(プログラム開始時): 教育学研究科修士二年

参加プログラム: 全学交換留学

派遣先大学: シェフィールド大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

イングランド中部サウスヨークシャー地方にある工業都市シェフィールド(ロンドンから電車で約二時間)にある大学。ラッセル・グループの一員である、大規模研究型大学である。

留学した動機

自分の専門である文体論の研究が盛んな国がイギリスであることが理由の一つ。もう一つは、高校一年のときにイギリスに行ったことがあり、再び行きたいと思っていたから。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況: 西暦[2014]年 修士 [2]年の[夏]学期まで履修

②留学中の学籍: 留学

③留学期間: 2014年9月 ~ 2015年6月 修士[2]年時に出発

④留学後の授業履修: 西暦[2015]年 修士 [2]年の[秋]学期から履修開始

⑤就職活動の時期: 西暦[2015]年 修士 [3]年の[7~8]月頃に 行う予定

⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[39]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[0]単位
留学後の取得(予定)単位[0]単位

⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2013]年 [4]月入学 西暦[2016]年 [3]月修了予定

⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [3]年[0]ヶ月間

⑨留学時期を決めた理由: 大学院一年目は中学校非常勤講師の契約を結んでいたため、その契約が切れる 2014年3月以降の留学にしようと決めた。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

日本の大学とは違い、履修人数に限りがあるケースが多いため、事前に履修登録が可能な場合は、履修希望の授業は事前登録の段階で忘れずにすること。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

英国ビザ Tier 4。2014年9月上旬に正式に取得。手続きに要した時間は約4か月。CAS Statement(ビザ申請に必要な、大学から発行される書類)が大幅に遅れることがあることを知っておくこと(私の場合はお盆明け)。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

アトピー性皮膚炎持ちのため、塗り薬を多めに出示してもらっていた。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

AIU海外旅行保険。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

在学延長申請、単位取得状況等の確認。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

修士二年夏学期に、Academic Writing(Advanced)を履修し、アカデミックライティングの準備をした。出発前の語学力は、IELTS 7.0程度。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

家族との連絡手段の確保(スカイプなど)。クレジットカードの用意。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

- EGH 102 Practical Stylistics
- LIT 2000 Genre
- EGH 310 Psychology of Language
- ELL 310 TESOL
- ELL 352 Approaches to Discourse
- ELT 5101 EFL Advanced

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

Lecture(講義)とSeminar(演習)に分かれている。Lectureは1時間の講義(教員からの質問が飛ぶこともある)、Seminarは少人数でのDiscussion(これも1時間)。予習はSeminar課題をこなすこと、講義内容に関係のある論文または教科書の該当箇所を事前に読んでおくことが中心となる。復習は、SeminarのDiscussion内容をまとめておくことが中心となる。私の履修した科目はほとんどレポート課題だったため、復習というよりは予習が中心であった。印象に残ったのは、LIT 2000 GenreとEGH 102 Practical Stylistics。Genreは課題の多さ(1冊の本+論文2~3本を事前に読んでおくことが求められ、これが毎週続く)と、Seminarでの質の高いDiscussion(担当はDr. Hallett)が印象に残っている。Practical Stylisticsは、Lectureが非常に楽しかった。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

学期ごとに60単位、一年で120単位を履修することになる(大体年間6科目)。秋学期は週15時間(各授業に5時間弱)学習に充てたが、春学期は週25時間(Genre以外は週5時間、Genreは週15時間)費やした。自身の研究については、土日に論文を1本読むというかたちで進めた。

④学習・研究面でのアドバイス

予習・復習を確実にこなすこと。あとは、Seminarについてであるが、「一時間に最低一回は発言する」ことを心がけるといいかもしれない。慣れてきたら、これを二回、三回と増やしていくとよい。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

現地学生の話すスピードについていくことに苦勞した。一語一語聴きとるのはまず不可能であり、聴きとれたとしても意味を知らないケースもあるため、全部聴きとろうとしないこと。あとは、間違いを気にしないこと(気にしているときりがないため)。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学内の学生アパート。大学ホームページで確認。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

大学まで徒歩30分

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

シェフィールドは安全であるが、他の都市に行くときは注意が必要である(私はリバプールで一度携帯電話を盗まれたことがある)。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

10万円(食費、娯楽費など)

・留学に要した費用総額とその内訳

350万円(寮費100万円、渡航費等100万円、生活費100万円、準備・片づけにかかった費用50万)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO短期派遣学生用奨学金(月8万円)

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

ダーツ部に所属し、毎週火曜日の部内リーグに参加していた。週末は、ダーツ部メンバーとの練習のほか、一人で旅行することもあった。長期休暇については、ポーランドに旅行に行ったり、英文科サークル主催のベルリン旅行に参加したりもした。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

語学サポートクラスがあるほか、生活面では、メンターが月二回ほどアパートに来て相談に応じるなどのサポートがあった。学習面については、教授のオフィスパワー時に、教授に直接質問・相談に行くということが可能である。個人的にはこれが一番役に立った。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は、年中無休の Information Commons を含め、大学には四か所存在する。スポーツ施設もあるが、私は利用しなかった。PC は主に図書館があるが、学生数に比べると圧倒的に少ないため、使えないケースもある。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

自信を持って面接に臨めているように思う。ただし、現在(報告書作成時)就職活動中のためこれがメリットと言えるかは正直分からないし、デメリットもわからない。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

ホームページ上での求人情報の確認。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- 1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:中学校・高等学校教員) 3.公的機関(機関名:)
4.非営利団体(団体名又は分野:) 5.民間企業(企業名又は業界:)
6.起業(分野:) 7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

英語は苦手というわけではなかったが、留学によって英作文のスピードがかなり上がったように思う(毎週のセミナー課題、レポート課題を通して)。まだまだ英語力は伸びると実感。約一年異国で暮らしたという経験を通じて、自身が付いたように思う。語学力を含む人間的成長、これが留学の意義ではないかと思う。

②留学後の予定

論文執筆、就活のほか、週二回中学校の非常勤講師として来年の三月まで働くことになっている。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

就職活動、自身の語学力などの問題で、留学を躊躇している人もいますが、行きたいという気持ちが少しでもあるなら、思い切って行ってみるのはどうでしょうか。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

大学のホームページ

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。